

職安における失業要因の分解と 政策的議論

-地域ブロック別分析を中心として-

労働政策研究・研修機構
大谷剛

本研究の目的

- 2004年の職安別・職業中分類別データを、通勤圏別・職業中分類別に再編したデータを利用し、10地域ブロックごとの失業要因を摩擦的失業、構造的失業(職業間ミスマッチと地域間ミスマッチ)、それに労働需要不足失業に分解する。
- これにより、いかなる地域で、どのような失業を解消することが特に重要となるのかを検討したい。
- これまでに、地域別の失業を細かに分解する作業は十分には行われてこなかった。

失業要因の分解方法について

- 全失業 = 摩擦的失業 + 構造的失業 + 労働需要不足失業
- 構造的失業 = 職業間ミスマッチ + 地域間ミスマッチ

以下では、各種ミスマッチをどのようにして捉えるのかを、具体例を挙げて説明する。

- 摩擦的失業：同じ職業・地域に、失業を満たすだけの欠員が存在しても発生している失業。

< 例1 >

「東京」の「商品販売の職業」に失業が100、欠員が100存在する。このときの失業100は、摩擦的失業という。

- 職業間ミスマッチ：失業者が、職業間で移動することによって解消可能な失業。

< 例2 >

「東京」の「一般事務員の職業」には失業が100ある。一方、「東京」の「商品販売の職業」には100の欠員がある。このときの失業100は、職業間ミスマッチという。

- 地域間ミスマッチ：失業者が、地域間で移動することによって解消可能な失業。

< 例3 >

「千葉」の「保安の職業」には失業が100ある。一方、「東京」の「保安の職業」には欠員が100ある。このときの失業100は、地域間ミスマッチという。

- 労働需要不足失業 = 全失業者数 - 全欠員数

地域ブロック別失業分解

	北海道		東北		北関東・甲信	
摩擦的ミスマッチ	36.10%		42.14%		58.51%	
構造的ミスマッチ	8.79%		16.86%		41.49%	
	職業間ミスマッチ先	地域間ミスマッチ先	職業間ミスマッチ先	地域間ミスマッチ先	職業間ミスマッチ先	地域間ミスマッチ先
職業間ミスマッチ	8.18%	5.71%	16.86%	11.31%	29.98%	36.55%
地域間ミスマッチ	0.61%	3.08%	0.00%	5.55%	11.51%	4.94%
労働需要不足失業	55.10%		41.00%		0.00%	
続き						
	南関東		北陸		東海	
摩擦的ミスマッチ	60.60%		50.12%		61.17%	
構造的ミスマッチ	25.77%		31.96%		38.83%	
	職業間ミスマッチ先	地域間ミスマッチ先	職業間ミスマッチ先	地域間ミスマッチ先	職業間ミスマッチ先	地域間ミスマッチ先
職業間ミスマッチ	25.69%	25.17%	30.45%	27.17%	35.87%	36.21%
地域間ミスマッチ	0.08%	0.60%	1.51%	4.79%	2.96%	2.62%
労働需要不足失業	13.63%		17.93%		0.00%	
続き						
	近畿		中国		四国	
摩擦的ミスマッチ	53.04%		51.58%		45.50%	
構造的ミスマッチ	20.10%		39.06%		27.09%	
	職業間ミスマッチ先	地域間ミスマッチ先	職業間ミスマッチ先	地域間ミスマッチ先	職業間ミスマッチ先	地域間ミスマッチ先
職業間ミスマッチ	19.69%	18.24%	35.87%	35.62%	23.85%	20.72%
地域間ミスマッチ	0.41%	1.86%	3.19%	3.44%	3.24%	6.37%
労働需要不足失業	26.86%		9.36%		27.42%	
続き						
	九州・沖縄					
摩擦的ミスマッチ	40.83%					
構造的ミスマッチ	12.66%					
	職業間ミスマッチ先	地域間ミスマッチ先				
職業間ミスマッチ	12.66%	8.81%				
地域間ミスマッチ	0.00%	3.85%				
労働需要不足失業	46.50%					

分析結果のまとめ

1. どの地域においても摩擦的失業の水準は高い。
2. 労働需要不足失業と構造的失業の水準には、地域ごとに差異がある。具体的には、
 - 労働需要不足の解消が特に重要な地域：
北海道、東北、九州・沖縄
 - 構造的失業の解消が特に重要な地域：
北関東・甲信、南関東、北陸、東海、中国
 - 労働需要不足と構造的失業の両方の解消が特に重要な地域：
近畿、四国したがって、地域個別の対応が必要となるように思われる。

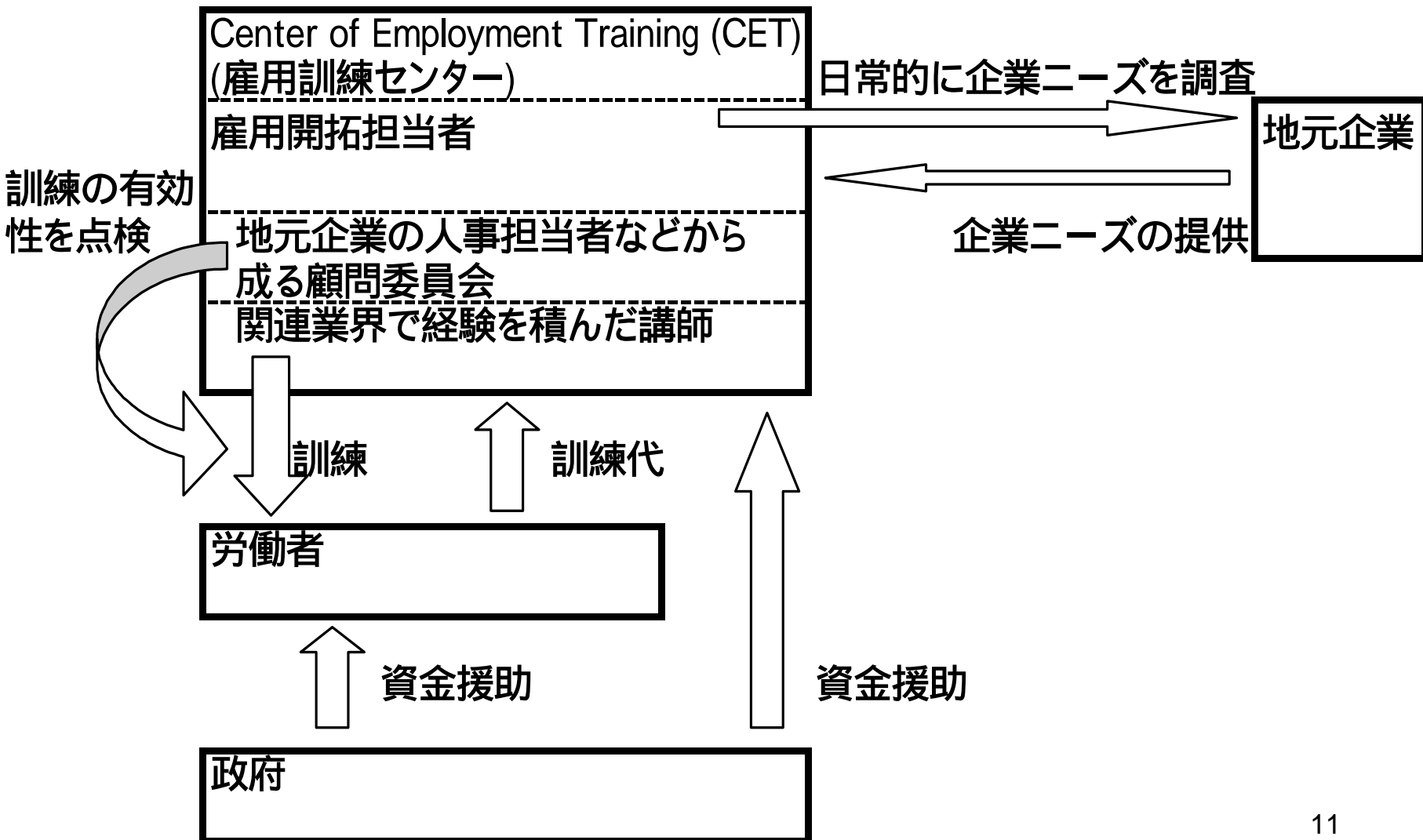
3. 構造的失業の内実を観察すると、どの地域においても、職業間ミスマッチの解消を優先することが望ましいように思われる。なぜなら、職業間ミスマッチを改善することにより、構造的失業の大部分を解消できるのに対して、地域間ミスマッチの改善によっては、構造的失業の少しの部分しか解消できないため。

各種失業をいかにして解消すべきか？

- 摩擦的失業について：この種の失業は、失業者と欠員側が望む、労働条件や賃金の食い違いなどによって発生し得る。それゆえ、コンサルティングなどにより、双方の乖離を狭めることが重要となる。
- 構造的ミスマッチを改善するためには、特に職業間ミスマッチを改善すべきかと思われる。そのための具体的手段としては、職業訓練などの施策が重要となろう。

- 労働需要不足を改善するためには、職安における求人開拓や、国・地方自治体による雇用創出などがより積極的に行われるべきである。

佐口(2004)で紹介されたアメリカにおける職業訓練に関する事例の要約図



分析に関する留意点

- 職安を利用した者のみが分析対象となっている。
- 十分な精度を持って、失業をさまざまな要因に分解できてはいない。
- したがって、今後はこのような限界を克服した上での分析が必要。また、上のような限界がある以上、他の方法によっても失業要因が多角的に分解されるべきことはいうまでもない。本研究より得られた結果は、試算の域を出るものではない。

主要参考文献

- 大谷剛(2007)「職安における失業要因の分解と政策的議論-地域ブロック別分析を中心として-」 JILPT Discussion Paper Series 07-03 (JILPTホームページよりダウンロード可)
- 佐口和郎(2004)「地域雇用政策とは何か-その必要性と可能性-」『自立した地域経済のデザイン-生産と生活の公共空間-』第9章、神野直彦他編、有斐閣